

1 題材名 曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう

2 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 B鑑賞(1)鑑賞

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

[共通事項](1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「テクスチャ」、「形式」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	思 音色、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材について

(1) 題材観

本題材は、音色、テクスチャ、形式の音楽を形づくっている要素に着目し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことをねらいとしている。

本題材で鑑賞する、バッハ作曲の「フーガ短調」は、バロック時代を代表するオルガン作品の一つである。始めに示された主題が、次々と加わる他の声部によって繰り返されながら発展していく「フーガ」の形式を、歌ったり、聴いたり、楽譜を見たりと、多様な手立てを講じながら理解することを通して、音楽の構造に気付き、生徒同士で伝え合う活動を通して、多声音楽のよさや美しさを味わえることをねらいとし、本題材を設定した。

(2) 生徒観

本学級の第2学年*組の生徒は、どの教科においても落ち着いて学習に取り組むことができる。音楽の授業では、ペアやグループで意見を出し合いながら話し合っている。また、合唱やアルトリコーダーの練習にも大変真面目に取り組んでいる。本題材に関する事前調査では、以下のような結果となった。

【本題材に関する事前調査】（令和7年5月1日（木）第2学年*組、*人）

（1）鑑賞の授業では、音楽を聴くとき、どんなところに注目して聴いていますか？

（選択式、複数回答可）



（2）パイプオルガンの音色について、どのようなイメージがありますか？（自由記述）

生徒の主な記述

- ・明るく華やかな音色、伸びやかな音色。
- ・木製のパイプは柔らかく温かい音色、金属製のパイプは明るく華やかな音色。
- ・「運命」や教会、結婚式のBGMなど、何かしらの荘厳な出来事で演奏されているイメージ。
- ・音の高さが少し低い。ゆったりと滑らかで優しい音色。
- ・聴いたことがない、ものすごく大きい迫力のある音が出そう。きれいな音が出そう。
- ・明るい感じ、外国の感じ。
- ・音色が深くて、全体に音が振動して響き渡るようなイメージ。

質問（1）の結果から、鑑賞の際、「形式」や「構成」、既習事項を手掛かりに比較しながら聴いている生徒は非常に少ないことが分かった。既習事項を活用したり、「形式」や「構成」に注目して鑑賞したりできるようにする必要があると考える。質問（2）の結果からは、パイプオルガンについて、演奏されている場面や音の響きや広がりなどの音色に関する考えをもっている生徒が多いことが分かった。生徒たちは昨年度、水戸芸術館を見学しており、その際の経験を想起して音色や奏法についていろいろなイメージをもっていると考え。なお、質問（2）については、事前にパイプオルガンの音色について生徒が予想をすることで、題材の学習で鑑賞したときに事前の考えに比べて音色についての気付きが膨らむことを期待して実施した。

（3）指導観

実態調査の結果から、本題材では「フーガ短調」を教材として曲想と音楽の構造との関わりについて学習することを通して、音楽にはさまざまな形式や構成をもつ曲があることや「フーガ短調」の音楽の構造を理解できるようにしたい。また、フーガの形式を理解していく過程でパイプオルガンの音色の奥深さに触れることができるようにすることで、フーガという形式の特徴から生み出される旋律が重なり合っていく面白さと、パイプオルガンの音色や音の重なりを結びつけながら生徒が音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにしたい。

本題材では、今年度水戸芸術館を訪れる予定の1年生に向け、「フーガ短調」の魅力を伝える紹介文を作成し発信するというパフォーマンス課題を設定する。1年生が「館内モニターでプレゼンテーション動画を視聴する」という具体的な場面を設定することで、生徒自らが教材曲の聴きどころを選び、どこに注目して聴いて欲しいかを主体的に探究する姿を引き出したい。本学級の生徒は、昨年度の校外学習や「中学生のための音楽鑑賞会」で同館のパイプオルガンを実際に見学しており、この経験を想起させることで鑑賞への関心を高めるとともに、題材を通したパフォーマンス課題を通して教材曲とじっくり向き合い、そのよさや美しさを味わえるようにしたい。また、授業においては、一人一台端末を効果的に活用し、聴きどころや紹介文を交流する際に演奏動画を提示しながら話し合ったり、共有スライドを用いて生徒がいつでも図形楽譜を参照したりできる環境を整えることで、視覚的にも旋律の特徴やフーガの三部構成を捉えやすくする。こうした学びを深められる手立てにより、鑑賞に苦手意識のある生徒も主体的に学習に取り組み、フーガの仕組みを理解しながら多声音楽のよさやパイプオルガンの音色を味わえるような授業展開を目指す。

6 題材の指導計画（3時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	1 常時活動 ・アルトリコーダーでカノンの練習曲を演奏する。 2 本時の課題を確認する。 「フーガト短調」とは、どのような音楽なのだろうか。 3 課題に迫る。 (1) パイプオルガンの音色や、楽曲に関心をもつ。 (2) 主題と旋律の重なり方、フーガの形式について理解する。 (3) 「フーガト短調」を聴いて気付いたことや感じたことをワークシートに記述する。 (予想される生徒の記述) ・次々と現れる主題 ・短調、最後は明るい和音で終わる ・パイプオルガンの音色 ・4つの旋律の重なり 4 本時のまとめを行う。 「フーガト短調」は、パイプオルガンで演奏され、響きのある音色が重なり合い、始めに示された主題が、次々と加わる他の声部によって繰り返されながら発展していくフーガという形式の音楽である。			○	・アルトリコーダーによるカノンの練習曲に取り組むことで、旋律が重なり合っていくフーガの面白さに気付くための下地を作り、楽しく学習する雰囲気をつくる。 態：曲想と音楽の構造との関わりに関心をもつことができているかを見取り、難しい生徒には動画の中で関心をもった箇所を繰り返し聴くよう助言する。【観察、発言、記述】 ・導入では別のパイプオルガン曲の一部を提示し、何の楽器で、何人の人が演奏しているかと問いかけ生徒に本題材の学習への興味関心を高められるようにする。 ・主題を歌う、鑑賞中に主題が聴こえたら挙手して音の重なりを確かめる、デジタル上の楽譜で主題を確かめながら聴くなどの活動を通してフーガの形式を理解できるようにする。 知：【発言、記述】 ・気付いたことや感じたことをワークシートに箇条書きで記録するように促すことで、次時の紹介文として表す活動の視点を整理できるようにする。
2	1	1 常時活動 ・アルトリコーダーでカノンの練習曲を演奏する。 2 前時を振り返り、「フーガト短調」がどのような音楽であったかを確認する。				・常時活動で練習しているカノンと本題材で学習しているフーガの違いを確認し、前時に学習したフーガの仕組みの理解につなげる。

	3 本時の課題を確認する。 「フーガト短調」の聴きどころを見付けるにはどんなところに注目して聴くとよいだろう。 4 「フーガト短調」の聴きどころを考える。 (1) よさや美しさを伝えるためのポイントを確認する。 (2) 教師によるモデルプレゼンを体験する。 (3) 個人で聴き深める。 ・聴きどころを見付ける。 ・「フーガト短調」のよさや美しさを感じ取る。 (4) 意見交流をする。 ・自分の考えた聴きどころを紹介し合う。 ・質問し合う。 (5) 聴きどころを紹介文として表す。 (予想される生徒Aの紹介文) 私が「フーガト短調」のよさを感じたところは、曲が終わりに向かう部分です。曲のクライマックスに向けて、だんだんと盛り上がっていく中に、最初の主題が表れます。そして、最後は明るい響きになって終わり、パイプオルガンの音色にも合っていて、とても美しいなと感じました。 5 本時の学習を振り返る。 (予想される生徒Aの振り返り) 今日は「フーガト短調」のよさや美しさについて紹介文を書きました。何度も聴いてみると、曲の終わりの部分だけでなく、出だしの主題に対して応える旋律もとても美しいと感じまし				・1年生が見学予定の水戸芸術館のモニターで流れる「フーガト短調」のプレゼンテーション動画作成を想定し、曲のよさや美しさを伝える紹介文を考えることを確認し、学習への意欲を高める。 ・紹介文として表す際のポイントの確認や教師によるモデルプレゼンの体験を通して、学習活動の見通しをもつことができるようにする。 ・教師によるモデルプレゼンでは、多様な視点からまとめた複数の例を提示することで、フーガ形式の特徴を捉えて聴きどころを見付けられるようにする。 ・各自のタブレットで演奏動画を繰り返し鑑賞できるようにする。 ・(4)で聴きどころを具体的に紹介できるよう、該当箇所の演奏時間を確認しておくよう伝える。 思：音色、テクスチュア、形式に着目して聴きどころを見付けることが難しい生徒には、顕著に特徴が捉えやすい箇所を提示して生徒の気付きを促す。【観察、発言、記述】 ・動画を流しながら聴きどころを紹介したり、どのような音楽の特徴から考えたのかを質問し合ったりするよう促し、音楽と言葉を往還させながら聴き深められるようにする。 ・意見交流で得た気付きを加えたり、再度聴き深めたりして聴きどころをまとめられるよう促す。 ・本時の振り返りでは、本時の気付きや学びを実感できるようにするとともに、よさや美しさを紹介文としてまとめるためにさらに聴い
--	---	--	--	--	--

		た。フーガの形式がパイプオルガンの響き渡る音色には合っていると思いました。次の授業では、1年生によさや美しさが伝わるように、出だしや中間部にも注目して聴いてみようと思いました。						てみたいところや注目したいポイントを整理するよう促し、次時への学習意欲を高められるようにする。
2 本 時	目標:曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 1 本時の課題を確認する。 「フーガ ト短調」には、どのようなよさや美しさがあるだろう。聴きどころを1年生に紹介しよう。 2 課題に迫る。 (1) グループ内で紹介し合う。 (2) 新たに気付いたよさや美しさ、感想等を伝え合う。 (3) 再度個人で鑑賞し、さらに気付いたよさや美しさを加筆しながら紹介文を仕上げる。 (予想される生徒の紹介文への加筆文例の一部) Aさんの「最後は明るい響きになって終わるところがとても美しい」という意見を聞いて私も聴いてみたら、とても美しい響きでこれまでの旋律の重なり方をしめくくるようなままとりの響きだと感じました。何度も聴きたいなと思えるような美しい響きでした。」 (4) 紹介文を学級全体で相互発表する。 3 題材の学習を振り返る。 ・改めて曲全体を鑑賞する。 ・自分の考えの変化、深まりを振り返る。 (予想される生徒の振り返り) 「フーガ ト短調」を鑑賞して、同じ旋律が少しずつずれて重なったり、低い音から高い音までさまざまなパートで登場したりすることで、音楽が広がっていくおもしろさを感じることができました。旋律がいくつも重なり合うことで生まれる美しい響きや音楽の深まりがフーガという音楽の魅力だと気づきました。これからは他にはどんなフーガのしくみを使った曲があるのかを調べたり、他のオルガン作品も検索して聴いたりしたいと思いました。機					・本時は、ここまでの学習を基に1年生への紹介文としてまとめる活動を通して「フーガト短調」のよさや美しさを深く味わうことを伝え、学習の見通しをもてるようにする。 ・生徒が新たな視点や気づきを得られるようなグループを編成し、課題に迫ることができるようにする。 ・自分が選んだよさや美しさがよく伝わる部分を具体的に動画で示しながら紹介するように伝え、互いに音楽の特徴からよさや美しさを味わって聴くことができるように促す。 ・グループ活動を通して得た新たな視点や気づきを活かしながら紹介文を修正することで、自分の考えを深められるようにする。 思：【観察、発言、記述】 ・最終鑑賞では「フーガト短調」のよさや美しさについての自分の考えが深まったことを実感できるようにする。また、電子黒板に図形楽譜を投影し、視覚的にもフーガ形式を振り返ることができるようにする。 ・振り返りでは、本題材での学びや気づき、さらに知りたいことについて自分の言葉で表すことで、本題材の学びを実感できるようにする。 ・振り返りの記述はICTを活用して共有することで、他者の学びや		

		会があれば、生演奏で「フーガト短調」を聴いてみたいです。			 ◎	気付きから多声音楽のよさやバッハや他のオルガン作品への興味関心を高め、さらなる探究心を喚起し今後の鑑賞の学習へつなげられるようにする。 態：【観察、発言、記述内容】
--	--	-------------------------------------	--	--	--	--